

児童が作成した自然環境地図

図1 自然環境地図



図1に、児童が作成した自然環境地図を示す。
この地図を作成した児童は3名である。「触覚と視覚を使って木の様子を観察する」活動に取り組んだ。

地図作りでは、それぞれが観察した樹木の中からいくつかを選び、記入している。さらに、樹木の様子の他にも観察の途中で気付いたことをメモとして書き入れて完成させた。

児童Bは、川の東側に等間隔で並んでいたことから「人間の手によって植えられたものである」と考えた。地図にはその様子が表れるように樹木を並べて描き、説明を加えている。さらにここから発展させ、森で木が育つ様子についての調べ学習にも取り組んだ。

図2 自然環境地図



図2に、児童が作成した自然環境地図を示す。

この地図を作成したのは2名で、「視覚と触覚を使って緑を観察する」活動に取り組んだ。

地図の中には、「雑草」の分布と土地利用の様子を表している。周りには、地図中の番号と対応させて、今まで「雑草」と呼んでいた草花の名前とスケッチ、大きさなどの説明カードをつけている。

児童Cは、野外観察で見つけたタンポポに興味をもち、その生態や種類にまで調べ学習を進めていった。

一方、児童Dは「雑草」が生えている場所は、道ばたや耕作していない畑であることに着目した。そして、手入れをせずとも大きくなる「雑草」の生命力に心を動かされたと発表していた。